

9. 庄内こどもの杜幼稚園保護者への「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）12 月 10 日（土）13 時 00 分～

○場 所：庄内こどもの杜幼稚園

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>新しい学校になれば、子どもたちも落ち着いて学習等に励めると思うが、工事期間中、子どもたちは目まぐるしく環境が変わり、落ち着いて学校生活を過ごせない子どももいるのではないか。そういった子どもへの配慮はどのように考えているのか。</p>	<p>現在のスケジュール（案）では、仮開校時に使用する野田小学校、第十中学校の校舎等を平成 31 年度（2019 年度）に改修し、子どもたちを受け入れるための環境整備を行いたいと考えています。</p> <p>また、仮開校時に 3 小学校の児童、2 中学校の生徒が一緒になるため、不安になったり、馴染めなかったりする子どもたちが出てくるかもしれません。そのような状況も想定し、スクールカウンセラーなどを手厚く配置することなど、子どもたちの精神的な負担をできるだけ軽減したいと考えています。</p>
<p>今回の学校再編で野田小学校や庄内小学校の敷地に移ると、運動場が狭くなり、今の島田小学校より教育環境は悪くなるのではないか。そもそも、野田小学校での仮開校は決まっているのか。</p>	<p>例えば、野田小学校の運動場は約 7,500 m²、島田小学校の運動場は約 8,600 m²ですので、子ども一人あたりの運動場面積という観点で見れば、狭くなることは事実です。なお、文部科学省が定める学校設置基準では、児童数 720 人を超える場合、運動場は 7,200 m²確保すればよいとなっています。</p> <p>仮開校につきましては、現時点の検討状況を説明したものであり、決まったものではありません。今後も皆さまのご意見をいただきながら、引き続き検討を進めたいと考えております。</p>
<p>施設一体型小中一貫校の場合、運動場はどれくらいの面積が必要になるのか。</p>	<p>文部科学省の基準では、小学校の場合は 1 人あたり 10 m²、中学校の場合は 12～13 m²ほど必要となり、平成 33 年度（2021 年度）の推計値で小学生約 730 人、中学生約 400 人ですので、この基準に照らすと 12,000 m²ほど必要になります。</p> <p>しかし、小・中学校とも設置基準には「ただし、地域の実態その他により特別の事情があり、かつ、教育上支障がない場合は、この限りでない」との一文があり、必須条件ではありません。</p> <p>新たな学校に 12,000 m²の運動場を備えることが理想的ですが、庄内地域に大きな土地があるわけではなく、限られた条件下において学校を整備しなければならないことをご理解ください。</p>
<p>これまでアンケートの結果として、賛成、反対、どちらが多いのか。</p>	<p>この案に賛成か、反対か、といったアンケート調査は行っておりません。これまで、説明会において構想案を説明した後、質問や意見を伺うという形式で進めていますが、賛成派の方が説明会に来られて「ぜひ進めてほしい」といった意見を言われることはほとんどありません。基本的には、構想案への</p>

	<p>不安、あるいは反対意見のある方が説明会に参加され、発言される場合が多く、こうした声だけでなく、いわゆるサイレント・マジョリティの「声なき声」も聞いたうえで正しく判断しなければならぬと考えています。</p>
<p>「魅力ある学校」づくり通信の第 2 号の 4 ページをみると、施設一体型は約 13%、施設分離型が約 78%となっているが、例えば 2 ページの成果をみるとすごく大きな数字、50%、60%を超えるような結果が示されている。わざわざかきかかない施設一体型の成果がなぜこんなに高いと言えるのか、理由がわからない。</p>	<p>「魅力ある学校」づくり通信の第 2 号には文部科学省が行った「小中一貫教育等についての実態調査の結果」を抜粋して掲載しています。1～3 ページまでのデータは母数が 1,130 件、つまり施設形態に関わらず、全ての小中一貫教育を行っている学校が回答したデータを掲載していますが、4 ページは、施設形態ごとに結果を整理して比較したもので、施設一体型は件数が少ないものの、成果を感じている学校の割合が高い、それに対して施設分離型は成果を感じている学校の割合が、施設一体型よりも低い、ということがわかります。したがって、同じ小中一貫教育を行うのであれば、施設分離型より施設一体型の方が望ましいと考えました。</p>
<p>小中一貫校がよいと言うのなら、2 校ではなく、3 校作ればよいのではないか。あるいは、現在の小学校区にこだわらず、一から校区編成し直してもよいのではないか。</p>	<p>この構想案に至るまで、さまざまな組み合わせ等を検討しました。例えば、既存の小学校を 2 校ずつ統合して 3 校に、中学校を 1 校に統合する案を考えましたが、中学校 1 校で 800 人と規模もやや大きく、校区も広すぎることから採用しませんでした。また、中学校 3 校を維持すれば、現時点においても第六中学校、第七中学校がそれぞれ 300 人ちょっと、第十中学校は約 230 人、各学年 2 学級という状況であり、さらに小規模化が進行すれば、学校運営が成り立たなくなる恐れもあり、中学校 2 校が適切と考えました。施設一体型小中一貫校ということで小学校も 2 校となり、9 学年あわせると 1,100 人の学校になりますが、1 学年あたり 100 人ちょっと、3～4 学級であり、いわゆる大規模校ではないと認識しています。</p> <p>なお、小学校区は地域コミュニティの活動単位となっていること、また過去の経緯もあることから、既存の小学校区を分断することなく、南北の 3 校区ずつ組み合わせる案を採用したものです。</p>
<p>今住んでいるところは、指定校である島田小学校よりも庄内西小学校の方が近いような場所である。そのような場所から、通学の安全確保も難しい野田小学校まで歩かせようとするのが本当に子どもたちのことを考えた案と言えるのか。先ほどから説明を聞いていると、随所に子どもたちのため、と言っているが、口先だけきれいごとばかり言って、本当に子どもたちのことを考えているとは思えない。中には障害のある子どももいる。これまでなら通えたかもしれない子が、学校再編で通学距離が伸びれば</p>	<p>仮開校について、庄内小学校と第六中学校は工事を行うため、そこに通う子どもたちは別の敷地に移ってもらう必要があります。そのときに、島田小学校の子どもたちをどうするかを考えたときに、教育委員会といたしましては、庄内小学校、野田小学校、島田小学校の子どもたちが一緒になって、新たな学校としてスタートした方がよいと考えて提案したものです。</p> <p>島田小学校の通学区域である庄内宝町から野田小学校まで約 2km、第十中学校まで約 2.2km あり、小学校 1 年生が入学当初歩くには厳しい距離かもしれませんが、子どもたちは日々成</p>

<p>ば通えなくなる可能性もあるが、そこまで考えているのか。</p>	<p>長します。しっかりと歩くことで体づくりにつながるものと考えています。</p> <p>通学の安全確保につきましては、教育委員会はもちろんのこと、道路整備等を所管している都市基盤部、さらには豊中南警察、大阪府警などと連携、協議しながら対応していきたいと考えています。これまでもスクールバスに関するご意見を多くいただいておりますが、現時点においてスクールバスの導入は考えていません。仮にスクールバスを導入しても、交通事故等のリスクはありますし、別の課題が生じるものと考えています。</p> <p>また、障害のある子どもの対応については、庁内関係部局で構成する検討会議において検討を進めており、一般的な通学とは切り分けて考える必要があると認識しています。</p>
<p>小規模校に課題があるという説明だが、何が問題なのか。良いところも多くあるのではないか。</p>	<p>おっしゃるとおり、小規模校には先生が目が行き届き、きめ細かく指導することができるといった良い面もありますが、人間関係の固定化や切磋琢磨する機会が少ないといった課題がより大きくなっているため、抜本的な対策が求められています。新たな学校でも、現在の良いところは活かしながら、課題の解消に向けて、教育活動の工夫などに取り組みたいと考えています。</p>
<p>結局、仮開校にしろ、施設一体型小中一貫校にしろ、もう決まっていて、いくら意見を言っても何も聞かないし、変わらないではないか。</p>	<p>何度も申し上げているとおり、本日の説明会は現時点の検討状況をお伝えし、それに対する意見をお聞かせいただきたいというのが趣旨であり、まだ決まったものではありません。今後も個別説明会を予定しており、いただいたご意見は持ち帰り、検討の参考とさせていただきます。</p>